



唐松

「理想の施設を」起業の経緯 本に

介護事業所経営・佐伯さん出版

【唐津市】

唐津市浜玉町で介護事業所を運営する作業療法士の佐伯美智子さん(50)が、著書「向かい風を乗りこなせ」(田窓社)を出版した。理想の事業所を目指して起業し、お年寄りや赤ちゃんと一緒にいる大家族のような施設を実現。起業や介護のノウハウを伝えるだけでなく、試練続きの過去を好転させた半生記で、「どんな状況でも挑戦してほしい」との思いで執筆した。

佐伯さんはカイトサーフ KUを設立し、現在は町内インをするために2007 で通所を中心とした2拠点に福岡県から唐津に移住 を経営している。16年に合同会社MU 作業療法士を「『作業』



お年寄りと談笑する佐伯美智子さん(右)

唐津市浜玉町大江の小規模多機能むく

とは生活そのもの。人の人生に深く関われる仕事」と言い、一人一人に寄り添うケアが行える場所を求めて起業した。当時、自身も生後3カ月の三男を抱えていたこともあって、赤ちゃんとお年寄りまでが一緒に過ごせる「大きな家」のような施設を目指した。職員は「子連れ出勤、大歓迎」をスローガンに子育て中の母親を雇った。赤ちゃんの「癒やし効果」でお年寄りが笑顔になる。職員の子が成長すると、外部から「赤ちゃんボランティア」を有償で募集した。赤ちゃんが介護に「役買うユニー

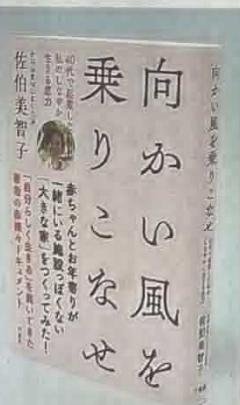
多世代が一緒「大きな家」実現

クな取り組みで、視察が納えないという。介護に携わる人には「お年寄りから『ありがとう』と言われるのではなく、できることが増えて誰かの役に立ったお年寄り自身が、『ありがとう』と言われる場面をつくってほしい」と願う。施設に駄菓子屋が併設され、お年寄りが店番を務めている。

SNSなどで書きためてきたものを一冊にまとめた。暴力団に囲まれて育った幼少期、国際結婚やシングルマザー生活、大病を患うなど苦難続きの半生も描き、そうした過去を「人生のネタ帳」と笑い飛ばす明るさと強さがある。

佐伯さんは「読む人で受け取り方が違う」と反響を感じている。寝たきりの親の介護で悩む人から「関わり方を変えたら、座ってご飯を食べられるようになった」という声や「自分も起業しようと思った」など、さまざまな感想が寄せられている。

四六判、280頁。税込み1980円。アマゾンで購入できる。問い合わせは合同会社MUKUの公式LINE(@785ynjjz)まで。(宮崎勝)



佐伯美智子さんの著書「向かい風を乗りこなせ」